

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

道定年度	令和5年度	学校コード	F135210110089	設置等相称名	工学部医薬工学科
大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	山口県	事業計画名	工学部医薬工学科の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1			R5年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和5年7月 文科省への届出	令和5年7月 文科省への届出		
フェーズ1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	① 令和5年6月 新教室棟の実施設計の実施（初年度） ② 令和5年9月 新教室棟の建設工事の着工（初年度） ③ 令和6年7月 新教室棟の建設工事の完了（2年目） ④ 令和6年8月 新教室棟の使用開始（2年目）	① 令和5年6月 新教室棟の実施設計の実施（初年度） ② 令和5年9月 新教室棟の建設工事の着工（初年度） ③ 令和7年2月 新教室棟の建設工事の完了（2年目） ④ 令和7年4月 新教室棟の使用開始（2年目）	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 建物基礎の支持層が予想より深かったこと等が原因で、工事期間の延長が必要となり、全工程の見直しにより完成期日を7ヶ月延伸し令和7年2月末までに工事完了し、令和7年4月1日に供用開始の予定である。
	開設又は定員増	令和6年4月 開設	令和6年4月 開設	
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	⑤ 令和6年8月 全自動遺伝子解析装置の購入 ⑥ 令和6年8月 細胞コエッセンス培養装置の購入 ⑦ 令和6年8月 細胞培養解析装置の購入		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止		令和5年8月 工学部応用化学科20人減員に係る届出提出		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-------------	-------	-----	-----------------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付けられている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-------------	-------	-----	-----------------

②	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック
③	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めることとし、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十九条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック
④	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック

4. 審査項目における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

[A：連携を通じた教育体制の整備と実施]（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>医薬工学科では、山口県製薬工業協会が加盟する企業や県・市と連携し、講義にケーススタディ演習を組み入れたアクティブラーニングを主体に授業を設計し、学生同士が十分な時間をかけてグループ単位で議論に参加する共創型の教育を行う。これらの課題解決型の実証教育（PBL）等を通じ、さまざまな知の集い、新たな価値創出の体験を重ねることにより、学生があらゆる「知」を動員し実社会でも通用する実践力を身につける。例えば、GMPに適合した製造や品質確保を目的としたPBL（生産者側の立場）、GMPを逸脱した場合の解決を課題としたPBL（消費者側の立場）、医薬品や医療機器の品質及び安全性の向上に寄与することを目的としたPBL（生産者側の立場）等を行う。また、本学は、MOTIに強みを持つ東京理科大学、インベストメント・マネジメント社、イノベーション・キャピタル社の4者で、学生の起業家教育とスタートアップ支援に関する連携協定を締結することで合意しており、アントレプレナーシップを醸成する教育、知財教育、新しい技術が持つ可能性を見極め事業に結びつけることで経済的価値を創出する技術経営教育に取り組む。さらに、海外大学との連携を進め、交換留学プログラムを整備する。</p>	<p>本学では、山口県、山口県製薬工業協会の産学官が連携し、医薬品の製造管理、品質管理、GMPの3原則等を体系的に学修する学部横断型教育プログラム（山口県GMPカレッジ）を実施しており、本取組みでは、講義にケーススタディ演習を組み入れたアクティブラーニングを主体に授業を設計し、学生同士が十分な時間をかけてグループ単位で議論に参加する共創型の教育を行うこととし、企業ニーズを踏まえた教育プログラムの拡充を図りながら、化学合成で製造される医薬品のプロセス開発・製造・分析・品質管理の担い手となる人材を育成する教育内容とする。GMPに適合した製造や品質確保を目的としたPBL（生産者側の立場）、GMPを逸脱した場合の解決を課題としたPBL（消費者側の立場）、医薬品や医療機器の品質及び安全性の向上に寄与することを目的としたPBL（生産者側の立場）等を理解できるように、「地域プラットフォーム」を活用し教育を行う。また、学生の起業家教育、スタートアップ支援の推進のため、東京理科大学、インベストメント・マネジメント社、イノベーション・キャピタル社、本学の4者間での連携協定も締結した。アントレプレナーシップを醸成する教育、知財教育、新しい技術が持つ可能性を見極め事業に結びつける技術経営教育に取り組む検討を進めている。さらに、国際交流センター長を主軸とした国際共同グローバル人材育成プログラムを実施し、本学学生と海外の大学生との繋がりをもつことによりグローバルコミュニケーション能力、多文化理解・対応能力を見据えた学生を育成する。</p>	

[B：多様な入学者の確保に向けた取組]

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>医薬工学科では、文系理系にとらわれないSTEAM教育により幅広い知識と能力を身につけるため、大学入学共通テストでは文・理の5教科7科目に「情報」を加え、個別学力試験では大学教育の基礎力となる思考力・判断力等を問う。また、工系系に女子が少ないことを配慮し、女性の活躍状況とキャリアアップ・デザインを可視化した広報を行うことにより、女子の進学意欲の向上を促す。さらに、女子特入試の実施、女子学生の確保を行うとともに、保育所を設置して子育て中の女性も安心して学べる環境を整備する。デジタル時代の読み書き・そろばんであるデータサイエンス、プログラミングの楽しさを学ぶ体験学習や、おくすり教室を、市内の小・中学生、高校生を対象に行い、未来のバイオDX産業人材を養成する。また、GMPの3原則を学ぶ「社会人GMP講座」、化粧品知識を学ぶ「日本化粧品検定講座」等によるリカレント・リスキングを実施する他、独自入試を行うことで社会人学生の受入れを強化する。さらに、山口県が設置する海外拠点と連携し、山口県内企業の進出拠点多い東南アジアを中心に、現地の生徒に本学科の魅力や、留学を促す取組みを行うとともに、外国人留学生のための寮を整備し、日本語と日本文化を学習する科目も充実する。</p>	<p>令和6年度入試において、化学を筆記試験とする学校推薦型選抜、共通テスト利用型の総合型選抜、5教科7-8科目型及び3教科5-6科目型の一般選抜前期日程、3教科5科目型の一般選抜公立大学中期日程を実施した。令和7年度入試における一般選抜では上記に「情報」を追加する。</p> <p>女子の進学意欲向上を促すため、大学案内や大学HPにて、工学部他学科の女子学生の在学中及び卒業後の活躍状況等を掲載した。外国人留学生入試の出願資格を一定の日本語能力を有する数としたため、留学を促す取組みとして令和5年11月に外国人留学生・大学・専門学校進学フェアへ参加した。外国人留学生科目として、「日本語1・2」、「日本事情1・2」を配置し、読解、ディスカッション、作文などの活動を通して日本語運用能力を総合的に高めることや、自国と他国の比較の視点から日本の文化や社会に対する理解を深めることを目標とした授業を実施している。デジタル時代の読み書き・そろばんであるデータサイエンス、プログラミングの楽しさを学ぶ体験学習として、本学独自で開催している市民体験型イベントの中で、タブレット等を用いたプログラミング体験学習を開催したり、データサイエンスについての講演を、小・中学生や生徒等に対して実施した。市内小学校に向向して実施している「おくすり教室」は7回実施し、未来のバイオ医薬産業、バイオDX産業等の人材養成を行っている。リカレントの取組と、山口県GMPカレッジに学生のみならず山口県製薬工業協会の従業員も参加しており、社会人入学促進の一助としている。</p>	<p>次年度においても、日本語の理解力がある外国人へ留学を促すため、引き続き外国人学生のための進学説明会へ参加する。</p> <p>初等中等教育向けデータサイエンス・プログラミングの体験学習において、タブレット等の学習用機材が不足している現状があることから、機材の効率利用や拡充等を検討する。「おくすり教室」において、対応教員の不足、試薬等の消耗品の予算不足等の課題が指摘されたが、山陽小野田市教育委員会連携を図り、教育委員会が従前から主催している「ほんもの科学体験講座」に「おくすり講座」を組み込むことにより、計画的な実施及び改善を図る。</p> <p>GMPの3原則を学ぶ「社会人GMP講座」、化粧品知識を学ぶ「日本化粧品検定講座」等によるリカレント・リスキングなど、社会人の効果的な受入方策等について検討を進めている。</p>

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-------------	-------	-----	-----------------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-----	-----------------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	380	420																		
		入学者数	人	407	449																		
	その他の学期	入学定員	人	***	***																		
		入学者数	人	***	***																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	380	420																		
		入学者数(B)	人	407	449																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.07	1.07																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	1580	1640																		
		編入学定員	人	***	***																		
		在籍者数(D)	人	1636	1774																		
		編入学者数	人	6	4																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.04	1.08																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況								選定	開設												
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		126,717	119,023	172,013	141,432	183,214	902,661													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	146,721
本事業による助成金の額(F)	千円	740,000
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	165,221

特記事項